

論文の内容の要旨

論文提出者氏名	竹 内 大 輔
論文審査担当者	主 査 伊藤 研一 副 査 田中 榮司 ・ 塩沢 丹里
<p>論文題目</p> <p>Relationships of obesity and diabetes mellitus to other primary cancers in surgically treated gastric cancer patients. (胃癌切除症例における、肥満もしくは糖尿病と、他臓器重複癌との関連性)</p>	
<p>(論文の内容の要旨)</p> <p>[背景]胃癌患者にはさまざまな他臓器重複癌が合併することが知られている。また肥満と糖尿病はさまざまな癌の発育に関連があるといわれている。胃癌患者における、肥満と糖尿病の他臓器重複癌への影響を検討した。</p> <p>[対象と方法]2002年から2010年までの期間で、当科にて胃癌手術を施行された435例を対象とした。他臓器重複癌の検索としては、術前には下部消化管内視鏡検査、胸腹部CT検査が施行された。術後には、6ヵ月後の胸腹部CT検査、1年後のCT検査と上部消化管内視鏡検査、下部消化管内視鏡検査が施行された。その後は1年毎のCT検査、内視鏡検査が施行され、異常所見が認められれば検査の間隔が短縮された。平均フォローアップ期間は39ヵ月であった。肥満に関しては、Body mass indexが25 kg/m²以上の患者を肥満群とした。空腹時血糖とHbA1cは手術前に検査され、糖尿病のスクリーニングが行われた。</p> <p>[結果]他臓器重複癌は109例(25.1%)に認められた。同時性重複癌を胃癌手術前後1年以内の発見と定義すると、同時性重複癌は40例(9.2%)、異時性重複癌が76例(18.2%)であった。他臓器重複癌の内訳は、消化器系が38例(34.9%)と最も多く、次いで泌尿器系が25例(22.9%)と多く認められた。単変量解析にて、他臓器重複癌は高齢者(p=0.001)、胃癌の遠隔転移陽性(p=0.02)、糖尿病患者(p=0.0022)に多く認められ、これら3因子を用いた多変量解析では糖尿病は他臓器重複癌発生の独立した危険因子であった(オッズ比2.215;95%信頼区間1.2007-4.0850;p=0.011)。単変量解析にて、同時性重複癌は男性(p=0.0067)、肥満群に多く認められた(p=0.025)。これら2因子の多変量解析では、肥満は同時性重複癌発生の独立した危険因子であった(オッズ比2.354;95%信頼区間1.1246-4.9279;p=0.023)。単変量解析にて異時性重複癌は高齢(p=0.038)、飲酒習慣(p=0.04)、糖尿病患者(p=0.0071)、HbA1c高値(p=0.0496)に多く認められた。これら4因子の多変量解析では、糖尿病は異時性重複癌発生の独立した危険因子であった(オッズ比2.680;95%信頼区間1.0291-6.9780;p=0.044)。術後成績に関しては、同時性重複癌を有する群は、そうでない群と比較して全生存期間において予後不良であった(p=0.04)。</p> <p>[結論]胃癌患者に糖尿病もしくは肥満を伴う場合は、他臓器重複癌の存在に注意しなければならない。特に糖尿病や肥満を有する胃癌患者の手術の術前、術後には他臓器重複癌も視野に入れたスクリーニングが必要である。</p>	